中 学 校

平 成 15 年 度

教 育 研 究 員 研 究 報 告 書

道　　徳

東 京 都 教 職 員 研 修 セ ン タ ー

平成１５年度

教育研究員名簿（道徳）

分科会名	区市町村名	学　校　名	氏　名
第１分科会	江　東	深川第三中学校	● 高橋清人
	目　黒	東山中学校	○ 斎藤圭祐
	荒　川	尾久八幡中学校	堀越啓子
	板　橋	西台中学校	小田島雅子
	練　馬	大泉学園中学校	豊永知子
	江戸川	二之江中学校	浅川　隆
	三　宅	三宅中学校	竹内勝己
第２分科会	新　宿	牛込第三中学校	室井由子
	大　田	大森第八中学校	坂梨　知
	八王子	南大沢中学校	◎ 海老沢　宏
	昭　島	拝島中学校	小熊克也
	東村山	東村山第三中学校萩山分校	● 中村哲也
	多　摩	東愛宕中学校	○ 三浦摩利
	利　島	利島中学校	齋藤健一

◎ 世話人　○ 副世話人　● 分科会代表者

（担当）東京都教職員研修センター統括指導主事　髙田　弘文

研究主題

『生きがいを求める心をはぐくむ道徳授業』
－指導と評価の工夫－

目　　次

Ⅰ　研究主題設定の理由 ---------- 2

Ⅱ　研究の構想 ---------- 3

Ⅲ　内容項目３－（３）「生きる喜び」についての指導（第１分科会） ---------- 4
　1　内容項目設定の理由 ---------- 4
　2　研究の内容と方法 ---------- 5
　　(1)　内容項目３－（３）のとらえ方 ---------- 5
　　(2)　生徒の実態と指導のねらい ---------- 6
　　(3)　指導と評価の工夫 ---------- 7
　　(4)　指導事例 ---------- 8
　3　第１分科会のまとめ ---------- 12
　　(1)　成果 ---------- 12
　　(2)　課題 ---------- 13

Ⅳ　内容項目２－（５）「他に学ぶ広い心」についての指導（第２分科会） ---------- 14
　1　内容項目設定の理由 ---------- 14
　2　研究の内容と方法 ---------- 15
　　(1)　内容項目２－（５）のとらえ方 ---------- 15
　　(2)　生徒の実態と指導のねらい ---------- 15
　　(3)　指導と評価の工夫 ---------- 16
　　(4)　指導事例 ---------- 19
　3　第２分科会のまとめ ---------- 21
　　(1)　成果 ---------- 21
　　(2)　課題 ---------- 23

Ⅴ　まとめと今後の課題 ---------- 24
　1　まとめ ---------- 24
　2　今後の課題 ---------- 24

Ⅰ　研究主題設定の理由

価値観の多様化と言われて久しい。２１世紀を迎え、家庭や地域の教育力の低下、社会全体のモラルの低下、人間関係の希薄化、福祉・健康問題、環境問題など、子どもを取り巻く教育環境にとってますます難しい課題が浮上している。このような課題に対し、生徒一人一人が未来への展望をもって社会生活を営んでいけるよう、「生きる力」や人間関係に基礎をおく道徳的実践力を身に付けさせることは重要である。

本研究では、豊かな人間性をはぐくみ、人間としての生き方の自覚を深め、主体的に生きる「生きる力」をもった生徒を育てるために「生きがい」をキーワードとした。生きがいとは生きる糧であり、よりどころである。しかし、一人一人がもつ生きがいは必ずしもそれがいつも道徳的なものであるとは限らない。

自分がこうありたいという自己実現に対する願いはだれでももっている。しかしその願いは自己中心的なものであったり、ややもすると身勝手な内容になったりすることもある。また、その願いを実現させるために方法や手段を誤ってしまうことも考えられる。そのような中で自尊心や自己存在感を肯定的にとらえながら、生涯にわたってよりよい生きがいを求めて生活していく必要がある。

一人一人が自らの生きがいに気付き、または出会い、そこに道徳的価値を結び付けて考え、深く自己を見つめることによって、生きがいはよりよい道徳的な生きがいに変容すると考えられる。つまり生きがいの向上であり、内面的、質的変容である。私たちは、人間が生きていく上で、自己の願いや思いを道徳的価値と結びつけて実現していく能力こそ、生きがいを求める力であると考えた。それを求める心があれば、よりよく生きようとする自己を成長させることができるであろう。本研究では生きがいを「もたせる」指導ではなく、生きがいを「求める心をはぐぐむ」指導を目指している。

道徳授業に限らず、これからの授業に求められているものは指導と評価の一体化である。道徳の授業における評価、指導に生かす評価はどのようにあるべきかを考え、授業に生かす評価方法を研究していかなければならない。そして、この評価は生徒自身が心の変容や成長を実感できるものでありたい。よりよい指導方法と、よりよい評価方法の密接な関係が、よりよい道徳授業をつくっていくものと確信する。

そこで、研究主題を「生きがいを求める心をはぐくむ道徳授業」とし、読み物資料を用いた道徳授業の研究を深めるために分科会を二つ設定した。第１分科会では、内容項目を３－（３）に設定し、研究の仮説を「心を揺さぶるような授業を工夫し、自らを深く見つめ、前向きに考えられるようになれば、生きる喜びを見いだす力が育つようになるだろう。」とした。第２分科会では、内容項目を２－（５）に設定し、研究の仮説を「いろいろなものの見方・考え方があることを理解することが、自らの心の成長につながる。これを実感できる指導と評価の工夫により、生きがいを求める心がはぐくまれるであろう。」とした。以上二つの仮説から、指導と評価の工夫を通し、それぞれ研究主題に迫ることとした。

Ⅱ　研究の構想

研究主題

『生きがいを求める心をはぐくむ道徳授業』
－指導と評価の工夫－

背景
・価値観の多様化
・家庭や地域の教育力の低下
・社会全体のモラルの低下
・人間関係の希薄化
・福祉・健康問題
・環境問題

課題
・「生きる力」の育成 →
・生徒の実態 →
← ・人間関係に基礎におく道徳的実践力

研究仮説

＜第１分科会＞	＜第２分科会＞
心を揺さぶるような授業を工夫し、自らを深く見つめ、前向きに考えられるようになれば、生きる喜びを見いだす力が育つようになるだろう。	いろいろなものの見方・考え方があるということ理解することが、自らの心の成長につながる。これを実感できる指導と評価の工夫により、生きがいを求める心がはぐくまれるだろう。

指導と評価の工夫

第１分科会	第２分科会
＜資料の選定＞ ・生きがいについて、多角的・多面的にとらえられるもの ＜導入の工夫＞ ・視聴覚教材の使用 ＜発問の工夫＞ ・簡潔化と精選 ・主人公の気持ちに沿って考えさせる補助発問 ＜板書の工夫＞ ・主人公の心情を整理するシート提示 ＜ワークシートの工夫＞ ・段階的思考の促進 ＜評価の工夫＞ ・評価の観点の明確化	＜資料の選定＞ ・いろいろな見方考え方があることを知り、心が変容していくことを実感できるもの ＜資料提示＞ ・教師の範読 ・中心人物の挿し絵の活用 ＜発問の工夫＞ ・主人公のセリフを考えさせる。 ＜ねらいに迫る工夫＞ ・人間関係の変容を視覚的に示す。 ・心のノートの活用 ＜評価の工夫＞ ・ワークシート設問の工夫 ・心情、判断力、実践意欲と態度

☆人間としてよりよく生きようとすることで、自分を成長させ、社会の発展に尽くそうとする。
☆よりよく生きるために、他に学び、人間としての生き方や現実に目を向け、生きる喜びを見いだそうとする。
☆生きがいを求め、そのために望ましい変容を遂げようとする。

III　内容項目３－（３）「生きる喜び」についての指導（第１分科会）

1　内容項目設定の理由

「目標のない若者が多い」と最近になって、そんな声が多く聞かれるようになった。ここ数年来、厳しい社会情勢が続いているが、そんな時代だからこそ中学生は、生きがいや将来の夢について、学校や家庭で大いに語り合ってほしいと願う。

第１分科会では、「生きがいを求める心」をはぐくむために、①自分自身の生き方に関すること　②人との結び付きに関すること　③生命に関すること　の三点について多面的・多角的にとらえられるような指導を行う必要があると考えた。

また、「生きがいを求める心」は、人間としてよりよく生きようとすることで、自分も成長し、よりよい生き方を追い求めようとする心であるととらえた。そのためには「生きる喜び」は無くてはならない。生きることに喜びを見いだすためには、○人間らしいよさを見いだし、よさを認める態度　○人間の内にある弱さに気付き、それを乗り超え、次に向かっていこうとする態度が必要である。

しかし、互いの違いを認めることかできずに、他人を傷つけるような心ない発言や行動をしてしまうなど、相手の立場に立って考えられない場面に出会うことがある。社会とのかかわりや生活体験が少なくなり、人間関係が希薄になっているために、価値を自覚として認められずにいるのではないかと考えられる。

人は生きていく上で、多くの人とかかわり、互いの生き方や考え方を認め、尊重し合おうとすることが大切である。中学生の時期は、それらを通して、生きる喜びを感得する心が育てられることが求められる。また、他人と比較をし劣等感にさいなまれたり、人を妬み、うらやましく思うようなときでもある。そこで、学校教育のあらゆる場面において、他とのかかわりを重視した活動を行うとともに、道徳の時間では、「生きがいを求める心」をもった人の姿に触れさせることで、「人として、こう生きたい」、「人に対して、こう接したい」と感じさせるような指導をしていきたいと考える。

そこで第１分科会では、道徳の授業において、人間として生きることに喜びを見いだす力を育成していくために、自己への問いかけを深められるような、心を揺さぶり共感できる資料を活用することが大切と考えた。また、主人公の心の「変容」に着目させ、生徒が道徳的な価値だけでなく、人間が生まれながらにしてもつ本能や弱さの部分にも気付くことで、自分の心を見つめられるようにしていく発問が大切と考えた。

この２つを「心を揺さぶる授業」を実現させる要素と考え、下の仮説を設定した上で研究を行った。

仮説

心を揺さぶるような授業を工夫し､自らを深く見つめ前向きに考えられるようになれば､人間として生きることに喜びを見いだす力が育つようになるだろう。

2　研究の内容と方法

(1) 内容項目３－（３）のとらえ方

内容項目３－（３）は、「人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きることに喜びを見いだすように努める」が指導内容である。

人は、だれでもよりよく生きたいと願っていると同時に、自分の弱さや醜さにも気付いている。その中で、いかに自分の弱さとつきあい克服していくか、いかに生きることに喜びを見いだしていくかが課題になってくる。また、人は生きていく上で大切な価値観、道徳観は大なり小なりもっている。しかし、人間関係の希薄さから、相手について深く知ろうとせず、表面で判断し、心ない言葉を投げかけてしまったり、相手の立場に立って一呼吸おいてからの言動ができないことが少なくない。

さらに、成長過程で、内的な要因、外的な要因が、価値観や道徳観に複雑に影響してくる。内的要因である「意志の弱さゆえ、易きに流れてしまう自分」「周りの人が自分より優れていることからうらやむ自分」、「自信のなさから劣等感にさいなまれてしまう自分」に気付いている。また、外的な要因である「他人の目」を気にすることによって、体裁を取り繕ったり、格好悪いと言われたりしないようにすることが、行動の基準になりがちである。しかし、一方では「こんなことではいけない」「成長していきたい」「よりよい人生を築きたい」という思いもあり、葛藤を繰り返していく。この状態を道徳の時間において克服するために、次の三つの「気付き」が大切であり、その価値を自覚として深めていく指導が必要であると考える。

①**「弱いのは自分だけではないということ」**への気付き

人は、周りの人が自分より優れているように思え、様々な誘惑に流されているのは自分だけだという錯覚に陥りがちだが、皆、弱さ・醜さをもっており、完璧な人間などいないということ、だからこそ成長できるのだということに気付くことである。そして、そのことで、自信をなくす必要はなく、逃げずに自分を奮い立たせることで、「こうありたい」という自分に近づけていけるようにする。

②**「だれでもよさをもっているということ」**への気付き

意外な人の、気持ちや行動の美しさにふれたとき「人はだれでも人間らしいよさをもっていること」に気付くことができる。ただ、気付きの後それを自分のものにすることは容易ではない。アンケートの結果を見てもわかるように「理解していることと行動」に差が出ている。そこで、人を表面で判断せず、知ろうとする・理解しようとする姿勢を身に付けていくことが必要となってくる。そのために、だれに対してもそのよさを見いだし認めていく態度を育てていくことが重要である。その視点を持つことで、豊かな人間関係を築いていけるようになるだろう。

③**「前向きに生きようと思う瞬間の自分」**への気付き

人から誉められたり認められたりすることは、生きていく上で大きな原動力となり、その瞬間、人は生きる喜びを感じ、生きることに前向きになり積極的になる。そういった経験を積み重ねることで、それが自信につながりさらに伸びていきたいと思うようになる。そのような場を多く設定し、認めていくことも必要である。

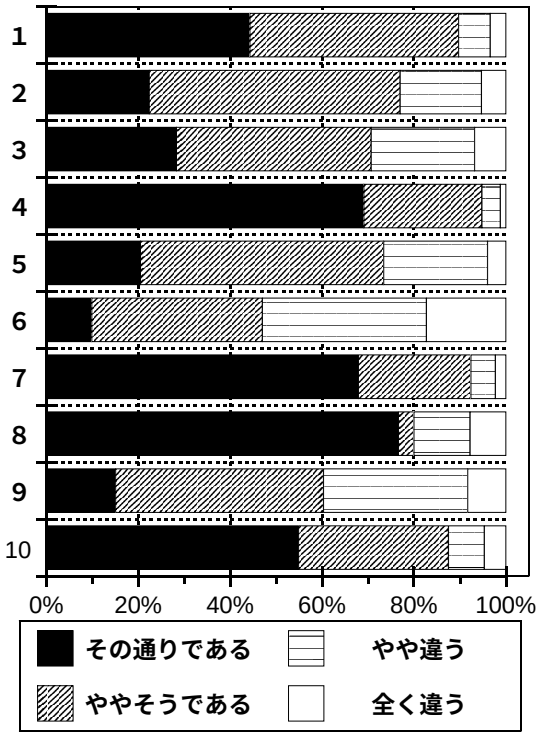
以上の指導により、人間として共に生きていくことに喜びを見いだしていくことができる。

(2) 生徒の実態と指導のねらい

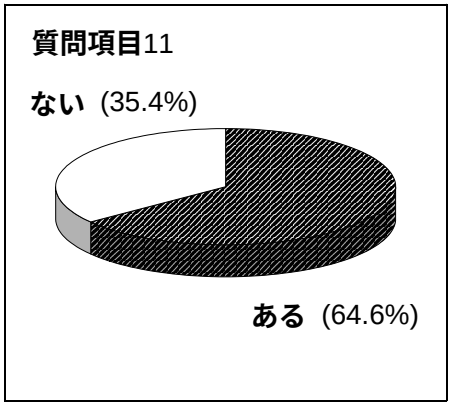
第１分科会では、意識や行動についての生徒の実態を把握するために、大きく「自分の生き方に関すること」、「人との結び付きに関すること」、「生命に関すること」の質問項目をつくり、アンケートを実施した。対象生徒は、第１学年から第３学年までの約９００名である。質問項目１～１０それぞれについては四つの選択肢の中から一つを選び、質問項目１１は、「ある」、「なし」のいずれかを選択し、「ある」と答えた場合は具体的な場面を記述してもらった。

【自分の意識や行動に関するアンケート】

1　才能より努力が大切だと思う。
2　自分の弱さを乗り超えようとしている。
3　充実した毎日を送っている。
4　やるべきことは一生懸命取り組むことが大切だと思う。
5　やるべきことは一生懸命取り組んでいる。
6　だれかに必要とされていると感じる。
7　本当に大切に思っている友だちがいる。
8　人はだれでもよい部分があると思う。
9　だれともわけへだてなく接することができる。
10　自分が家族の一員であると実感できる。



11　人が「生きている」ことの大切さを感じたり考えたりしたことがある。



アンケート結果から、多くの質問項目に対して７割以上の生徒が、「その通りである」「ややそうである」と答えている。その中で、以下の質問項目については、生徒が思っていることと実際に行動していることに差が現れていることがわかる。

2「自分の弱さを乗り超えようとしている。」
3「充実した毎日を送っている。」
4「やるべきことは一生懸命取り組むことが大切だと思う。」
5「やるべきことは一生懸命取り組んでいる。」
8「人はだれでもよい部分があると思う。」
9「だれとでもわけへだてなく接することができる。」

これは、理解はしているが、行動が伴わないことを示唆している。また、質問項目６の「だ

れかに必要とされていると感じる」に関しては、半数以上の生徒が「やや違う」「全く違う」と答えている。この数値は、他の質問項目と比較して最も差が出てきた。質問項目７の「本当に大切に思っている友達がいる」の結果からも、自分のよさや周りとのかかわりの中で生きていることに気付いていないことがうかがえる。

そこで、自分のよさに気付かせたり、人がもつよさを認め合って生きていくことの大切さやその価値の重さへの理解をどのように深めさせていくかが課題となった。

また、質問項目１１の結果から、多くの生徒が人の生命にかかわる場面を体験したり知ったりしており、生きていることの大切さを感じていることがわかる。

(3) 指導と評価の工夫

ア　資料

資料の選定にあたっては、生徒の心を揺さぶり、人間の真実の姿を描いた、心に染み入る資料を用いることに最も重点を置いた。生徒にとって道徳の授業が心に残るものとなるには、生徒に親しみやすいものであること、他の人もそうなんだと自分の考えを深めることができること、自分と異なる考えや感じ方をする人がいることに気付くこと、勇気づけられたり感動したりできることなどの視点が大切である。今回用いた資料は、それらを十分に満たし、なおかつ発問の工夫によって内容項目３－（３）に迫りやすいものである。

また主な関連項目として、１－（５）「自己を見つめ充実した生き方を追求する」、２－（５）「互いを尊重し他に学ぶ広い心をもつ」などが挙げられる。これらも、人としての生き方について関心が高くなり、よりよく生きたいと希望するが自分の生き方が見えずに悩む現代の生徒の実情にふさわしい項目である。これらの項目によって多角的に生徒の心に迫ることで、それぞれが影響を与えながら、今までの自分を見つめ、さらに心が変化し、自分自身の考えを深めるのに適した資料であると考える。

イ　導入の工夫

導入は主題に対して生徒に興味・関心を高め、ねらいとする道徳的な価値を促したり、資料への補助説明的な役割を担うものである。資料「吾平と久作」は、鳥羽の沖合の小さな島が舞台である。そこで、波の音を効果的に取り入れることで心を落ち着かせると共に、新しい世界へ導いていく。

ウ　展開の工夫

○　この時期、自分の考えや思いをそのまま表現することに抵抗を感じる生徒も多い。そこで発問は「あなたはどう思うか」ではなく、「主人公はどのような気持ちだったか」のように主人公の心に沿った発問で共感を呼び起こした。

○　道徳的価値の葛藤を生徒一人一人に起こさせるには、教師と生徒、生徒と生徒との意見のやりとりが大切になってくる。そこで共感しお互いを深め合えるような授業の展開や安心して自分の考えが発表できるように教室の雰囲気づくりを心がけた。

○　発問は前もってシートに提示せず、その度に黒板に提示することで、段階的な思考を促し、自己と向き合いテーマに沿って熟考できるようにした。

○　発問については次の点について留意した。

・簡潔にして意図が明確に伝わるようにする。
・順を追ってねらいに迫っていくことができるように厳選する。
・ねらいが明確になるように、生徒の実態に応じ補助発問を用意し、段階的に考えることができるよう工夫する。
・発問について、じっくりと自分に向き合い考える時間を確保する。

以上の工夫を行った上で、生徒が互いの意見に耳を傾け、様々な考え方があることを認め合い、自分自身の考えが深まる展開となるよう工夫する。

○　板書の工夫
・黒板に提示したシートにより発問を明確にし、順を追って考えを深められるようにする。
・主人公の心情の変化を効果的に分類し整理することで道徳的価値の自覚を促す。

エ　評価

道徳の評価は、数値などによる評価を行うことは適切ではないが、段階的な発問による答えをワークシートに記入し、その書くということで自らのもっている道徳的な価値に気付き、さらにそれが高まり自覚されていくようになると考える。またこのワークシートを机間指導により、確認しながら授業の展開に生かしていくことも大切である。道徳的な生徒の心の動きを長期的にとらえて、後日、共感的・受容的な言葉を中心にした教師のコメントを添えて返却することも重要である。

今回の授業における評価の観点及び規準は、以下の３点である。
・主人公の心の変化に気付くことができたか。（道徳的心情、判断力）
・人はだれでも人間らしいよさがあることを認めるとともに、だれに対してもそのよさを見いだしていくことの大切さを感じることができたか。（道徳的実践意欲と態度）
・自分の弱さに気付き、それを克服しようと思うことができたか。（道徳的実践意欲と態度）

これらについての発問、ワークシートを作成することが重要であり、工夫をしてきた。

また、様々な発問に対して、生徒が思考している内面の活動こそが重視されるべきである。

今回は、生徒が共感しやすい資料であったためか、ワークシートにぎっしり言葉を書いた生徒が多くいた。そのような場面を丁寧に観察することが重要になる。この内面の活動を援助し、さらに深めるためにも机間指導による言葉掛けなどの工夫もする。挙手による発表だけではなく、一人一人の表情の観察や行間に込められた思いにも共感的に理解していくよう努力する。

(4) 指導事例

ア　主題名　「人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きることに喜びを見いだすように努める」
【内容項目　３－(３)】　【主な関連項目　１－(５)　２－(５)】

イ　資料名　「吾平と久作」　鴨井雅芳

ウ　資料の概要

吾平と久作は、立派な漁師になるために努力する。しかし才能があり腕を振るう久作に比べ、吾平は失敗ばかりで毎日、網の繕いを命じられる。吾平をうとましく思い自信にあ

ふれる久作と、思い悩み、せめて網を一生懸命に繕おうとする吾平。そのような中で久作はますます有頂天になり、吾平と一緒の舟に乗ることさえ嫌気がさしてくる。ある日、吾平は失敗から舟に乗ることを禁じられる。だが、吾平の代わりに久作が繕った網は全部ほどけてしまい、魚をすべて逃がしてしまうのである。久作は吾平の仕事の確かさにやっと気付く。思い上がっていた久作は吾平にすまない気持ちでいっぱいになった。

エ　ねらい

・人はだれでも人間らしいよさがあることを認めるとともに、だれに対してもそのよさを見いだしていく態度を育てる。

・人間の内にある弱さに気付き、それを乗り超え、次に向かっていこうとする態度を育てる。

オ　指導過程

	学　習　活　動	予想される生徒の反応	指導上の留意点	評価の観点と方法
導入	○波の音を聞き、島の情景を思い浮かべる。		・興味を高めると共に、心を落ち着かせる。	
展開	○資料を読む。		・波の音をＢＧＭにして、臨場感を高める。	・落ち着いて資料を読む気持ちが整っていたか。【観察】
	［発問１］ ○久作は漁のたびに親方に頼りにされ、どんな気持ちだったでしょうか。	・得意になっていた。 ・嬉しかった。 ・自信満々だった。	・有頂天になっている久作の気持ちを考えられるようにする。	・久作の心情を素直にとらえることができたか。【観察】
	［発問２］ ○一方、吾平はどんな気持ちで網を繕っていたでしょうか。	・久作がうらやましい。 ・何で自分は漁が下手なんだろうか。くやしい。 ・早く漁が上手になって、認められたい。	・吾平の怒られても、生きがいを求めようとする前向きな姿勢に気付いた生徒の考えを取り上げる。	・吾平の心の葛藤を感じることができたか。【観察】
	［発問３］ ○久作はいつも失敗ばかりしている吾平を	・あいつのせいで、何で俺までおこられな	・久作の気持ちになって、人	・久作の心情に気付くことが

	どう思っていたでしょうか。 ・ワークシートに記入する。 ・友達の発表を聞く。	くちゃならないんだ。 ・なんて漁師に向かないやつだ。	間の本能や弱さを引き出せるようにする。	できたか。 【ﾜｰｸｼｰﾄ】
	［発問４］ ○親方から「おまえなんか明日から船に乗らんでえぇ」と言われた時、吾平はどんな気持ちだったでしょうか。 ・ワークシートに記入する。 ・友達の発表を聞く。	・もう漁師をやめてしまおうか。 ・何で上手にならないんだろう。 ・くやしい。もう一度チャンスがほしい。	・吾平の気持ちになって、考えさせる。	・吾平の心情に気付くことができたか。 【ﾜｰｸｼｰﾄ】
	［発問５］ ○久作の繕った網で、漁が失敗した出来事を通して、吾平と久作のそれぞれどんなことを考えましたか。 ・ワークシートに記入する。 ・友達の発表を聞く。	＜久作＞ ・今まで魚が捕れていたのは、吾平の網のおかげだったんだ。 ・今まで見下して、悪かった。 ＜吾平＞ ・自分に自信がもてるようになった。 ・みんなに認められて、うれしい。	・時間を十分に与えて考えさせる。 ・吾平と久作の気持ちの変化に着目させる。	・吾平と久作の心の変容に気付くことができたか。 【ﾜｰｸｼｰﾄ】
終末	［発問６］ ◎吾平と久作に共感したことは、どんなことですか。また、どんなことを学びましたか。 ・ワークシートに記入する。 ・友達の発表を聞く。	・だれにでもよいところがあることに気付いた。 ・自分に自信をもつことの大切さを知った。	・自己の経験を振り返らせ考えを深める。	・自分のこととして考えることができたか。 【発表、ﾜｰｸｼｰﾄ】

カ　評価の視点

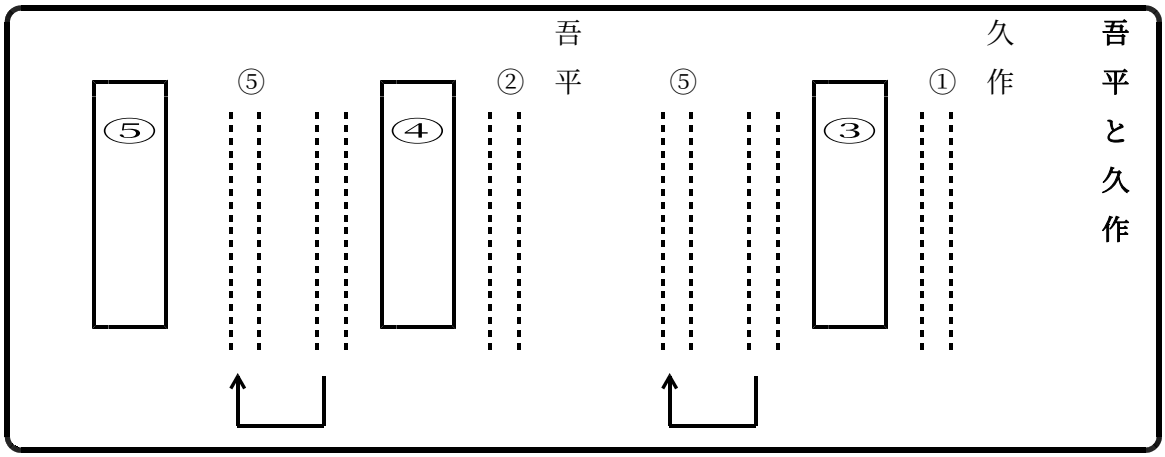
・主人公の心の変化に気付くことができたか。

・人はだれでも人間らしいよさがあることを認めるとともに、だれに対してもそのよさを

見いだしていくことの大切さを感じることができたか。

・自分の弱さに気付き、それを克服しようと思うことができたか。

キ　板書例



①［発問１］に対する発言

②［発問２］に対する発言

③久作はいつも失敗ばかりしている吾平をどう思っていたでしょうか。

④親方から「おまえなんか明日から船に乗らんでえぇ」と言われた時、吾平はどんな気持ちだったでしょうか。

⑤久作の繕った網で、漁が失敗した出来事を通して、吾平と久作のそれぞれどんなことを考えましたか。

＊発問は、あらかじめワークシートに記入せず、③→⑤と黒板に提示する。

発問③と⑤（久作）、④と⑤（吾平）の気持ちに着目させ、その変化に気付かせるようにする。

ク　ワークシートの記入

吾平と久作に共感したことは、どんなことか。また、どんなことを学びましたかについて、ワークシートに記入する。

3　第1分科会のまとめ

第１分科会では研究主題である「生きがいを求める心をはぐくむ道徳授業」についての指導を展開するにあたり、「心を揺さぶるような授業の工夫をし、自らを深く見つめ前向きに考えられるようになれば、人間として生きる喜びを見いだす力が育つようになるだろう」との仮説のもと、内容項目３－（３）についての研究を進めた。

「生きがい」を感じるには様々な場面がある。当分科会では、それを大きく、「自分の生き方に関すること」「人との結び付きに関すること」「生命に関すること」の三つにとらえた。この三つの観点に関することを項目としたアンケートを実施し、生徒の実態を調査した。同時に、この三つの観点がかかわり合う、心を揺さぶり共感できる資料の選定に時間をかけた。

当分科会では、心を揺さぶり共感できる資料を用いて、資料が最大限生かされるような発問の工夫をし、検証授業を行った。

(1) 成果

ア　資料の選定

当分科会では、生徒の心に残る効果的な授業を目指すために、提示する資料よさが最も重要なものの一つと考えた。そこで、既製の副読本に限らず、幅広い視野で資料を選定した。

また、「生きがい」を感じさせる資料として、「自分自身の生き方に関すること」「人との結び付きに関すること」「生命に関すること」について、多面的・多角的にとらえられる資料を選定できるよう努力した。そのため、ねらいはもちろん、生徒の多様な感じ方・とらえ方が引き出せる深まりのある授業となった。

イ　導入の工夫

資料をより効果的に生かすために、主題に対する興味・関心を高めるもの、資料の世界に入りやすい雰囲気となるものをねらいとして選定した。視聴覚教材を利用することで、わかりやすく、心に入りやすいものとなった。

ウ　発問の工夫

資料を生かすために、できるだけ発問を簡潔にまた精選した。その分じっくりと感じ、考え自分と向き合う時間を確保できた。また、ねらいに直接結びつく発問以外は、主人公の気持ちに沿って、考えるよう促した。自分自身の考えを、主人公に代弁させることができ、より素直な気持ちを引き出すことができた。

エ　板書の工夫

板書をより効果的に活用するために、あらかじめ作成したシートを黒板に提示するようにした。さらに主人公の心情を色に分けることで、主人公の気持ちがより視覚的に整理され生徒の心に入りやすくなる利点もあった。

オ　ワークシートの工夫

前もって発問の内容を提示しないことで、段階的な思考を促し、自己と向き合いながら、生徒自身の考えを引き出すことができた。

《記入結果から》

◎久作が繕った網で漁が失敗した出来事を通して、吾平と久作はどんなことを考えましたか。

＜吾平＞
・俺にできて久作にできないことがあったのか。俺にもとりえがあった！
・みんなに迷惑ばっかりかけてるけど、俺にも出来ることがあって、みんなの役に少しは立っているからよかった。
・みんなに認められてうれしい。自分に自信がなかったけど自信がついてきた！
・久作や親方に迷惑をかけずに早く漁にでたい！
＜久作＞
・吾平がこんな網のスペシャリストとは思わなかった。あやまりたい。
・吾平を頼りないと思っていたのが申し訳ない。吾平がいないと魚はとれない。
・吾平に優しくしよう。吾平とは助け合っていきたい。
・吾平のことを見下して恥ずかしい。今まで自分だけが偉いと思ってたけど違うんだ。

◎吾平と久作に出会って、どんなことを共感し、学びましたか。

・吾平の努力を見習いたい。久作の気持ちが開き直らないで、素直に吾平に謝った態度を見習いたい。
・自分が何かに成功したときは、それにかかわった人全員に感謝しておごらないようにしようと思った。
・私が吾平と同じだなと思うところは、部活の試合に出たとき。キャッチができなかったり失敗をしてしまうことがあります。そんな時とても悔しい気持ちになります。しかしこの話を聞いて、私は自分にもっと自信をもって何事も前向きに行っていこうと思った。
・今までは何をやってもだめという人がほんの、ほんの、ほーんの少しはいたと思ったけど、一人一人、一つはその人にできることがあるということを学びました。吾平は漁が下手だと思われてたけど、最終的には漁の腕が上がったから、何事も一生懸命やれば、うまくなれるというふうに思いました。
・人の悪いところだけを否定するのではなくて、いいところをみつけてあげるのも大切なんだと学んだ。
・僕と吾平は少し似ている気がした。いつも足を引っ張っていた。それなのに僕は久作のように人を見下していたりするところが少しあったと思う。これからは、少しでもお互いに認めあえるように少しずつでも努力していきたいと思う。
・自信が無くても一生懸命やればいつかみんなに認められ、自信がつくんだと思った。
・何事も前向きじゃないと人間はダメだと思った。

カ　評価の工夫

評価の観点を明確にしたことで、道徳的な生徒の心の動きをとらえやすくなった。

(2) 課題

ア　資料の選定

資料の選定に当たっては、人権にかかわる表現に特に気を配りながら学校や生徒の実態にあった資料の発掘や開発方法の研究などをどのように行うかが課題である。

イ　指導・評価の在り方

生徒の心の成長を深める道徳授業の指導に当たっては、短期的な視野と長期的な視野を常に忘れてはならない。生徒の内面的な心の動きを感じ、引き出すための机間指導、観察、一人一人への温かい言葉掛けなども大切である。当然、授業を深めるには教師と生徒の信頼関係、生徒間の人間関係のよさが前提となる。

道徳的な価値の深まりについては、１時間の授業で検証するのは大変難しいが、ねらいとする価値を明確にすることで生徒にとって人間としての生き方についての自覚を深め、よりよく成長していくことの支えになる。また、次時とのつながりや追指導をどう行っていくかは重要な課題である。

Ⅳ　内容項目２－(５)「他に学ぶ広い心」についての指導（第２分科会）

１　内容項目設定の理由

本分科会では今年度道徳部会の研究主題にどのような内容項目で迫れば、より効果的な実践が展開できるかを考えた。そこで、生きがいを求める心をはぐくむためには主として自分自身にかかわることだけではなく、他の人や集団とのかかわりの中でも自己の生きがいに気付くことが、よりよく生きようとする心情や判断、実践意欲・態度を培うと仮定した。

今年度に入り、凶悪な事件に中学生がかかわったり、生きる目的が見いだせないとの無気力な理由から自ら命を絶つ中学生がいたり、親や友人、教師など身近にかかわる人間を含めて、自分以外の他者の思いや人格を慮らない事件が後を絶たない。このような事件は何も中学生に限ったことではなく、社会全体として同じような問題を抱えている。中学生を教えている立場にある身ならば、今ここにいる生徒たちがそのようなマイナスの社会的な背景に惑わされないような生き生きとした自己をもち、自己の未来に明るく前向きな姿を描きながら毎日の生活を過ごすことを願わずにはいられない。

このような事件を特別視せず、中学生という時期にある子どもたちの現状を見るとき、自分の考えや立場に固執して自己中心的な言動をとってしまう傾向は少なからずあるといえる。中学生の多くは、この時期に思春期や反抗期を迎え、様々な葛藤を経験する段階にある。同時に他と異なる個性を自ら獲得し、ものの見方や考え方に違いが現れてくるこの段階において、自分なりの角度から自分なりの視野で物事を見るだけでなく、開かれた心で他に対して謙虚に学ぶことがよりよい人間としての成長を促すために必要である。

個性は決して自分一人の力だけで伸びるものではなく、他に認められながら伸びるということも考えると、互いに相手を認め合う人間関係づくりが求められる。その土台となる道徳的な心情に気付き、よりよい判断をして実践しようとする意欲や態度が、今最も望まれていることなのではないだろうか。

他者の思いを心から理解するということは、先入観や決め付けている自分の偏狭な心を解放し、心が成長するということである。他を認め、他に学ぶ広い心が人間としての成長に役立つことを実感し、実践的意欲が湧いてくれば、他を思いやり、尊重し、心を通わせて共によりよく生きていこうとする態度が芽生えるに違いない。また、他に認められることによって生きがいを求める前向きな生き方を志向するようにもなるだろうと本分科会では考えた。

以上のような理由により、本分科会は内容項目２－(５)「他に学ぶ広い心」に注目し、自分とは異なる個性や立場を認め、他者の思いや考えを理解しようとする心情や判断力、実践力を培う過程の中で自らの心の成長に気付けば、それが生きがいとなり、同じように自ら進んで生きがいを求めるようになると考え、以下の仮説を立ててそれに基づき研究を進めた。

仮説

いろいろなものの見方や考え方、思いを理解することを実感できる指導と評価の工夫により、よりよく生きていこうとする態度や生きがいを求める心がはぐくまれるであろう。

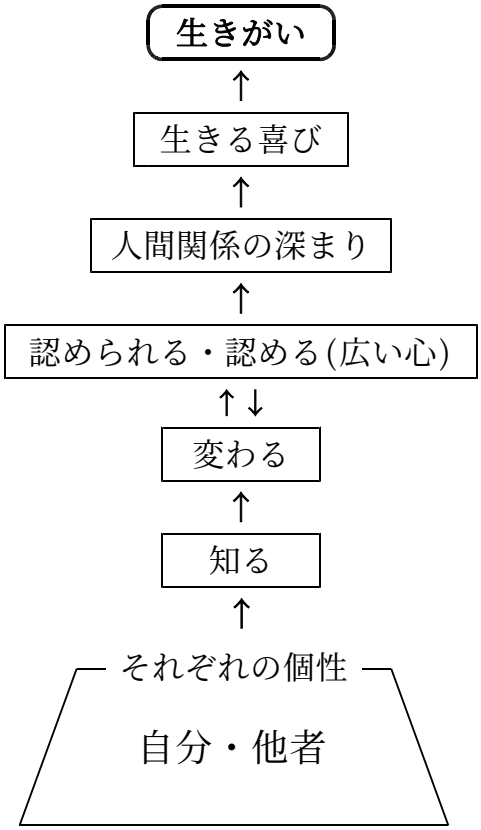
2　研究の内容と方法

(1) 内容項目２－（５）のとらえ方

内容項目２－（５）は「それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、謙虚に他に学ぶ広い心をもつ」が指導内容である。人はしばしば自分の考えや少ない情報量だけで相手に先入観を抱いてしまうことがある。特に中学生の時期は、自我を全面に押し出し、自分の価値観だけで世界を見ようとする傾向が強い。そのために、僅かなすれ違い、誤解があっただけでも、人間関係が崩れてしまうことが見受けられる。正しいと思った自分の言動についても、実は自問自答し、葛藤して悩んでいることが多い時期である。このような時期だからこそ、相手を理解することができたとき、自分の考えだけに陥ることなく、他に学ぶ広い心がはぐくまれると考えた。

私たちはこのような考えから、右図のようにこの項目についてとらえた。人にはそれぞれ異なる個性があり、様々な生き方がある。それを認めた上で、相手の本当の姿を知り、考え方や立場を理解したとき、視野が広がり、自らも変わろうとする心が芽生えてくるのである。つまり互いに異なる個性を認め、認められることで人間関係の深まりが期待できる。同時に、自分の考えだけに固執することなく、どのような人に対しても広い心がもてるようになってくる。この結果、周りの者と共に生きることへの喜びへつながり、互いに生きる喜びを分かち合うようになる。これらの小さな経験の積み重ねは大きく実を結び、生きがいにつながっていく。人は生きがいを心に感じたとき、心の成長に無限な広がりを見せはじめる。これが我々の目指す生徒像であり、このとらえ方から研究の方向性を見据え、アンケート調査結果に基づき指導計画を立て進めることにした。

内容項目２－（５）のとらえ方



(2) 生徒の実態と指導のねらい

生きがいを求める心をはぐくむためには主として自分自身にかかわることだけでなく、他の人や集団とのかかわることでも、よりよく生きようとする心情や判断、実践意欲・態度が培われると考えた。そこで、他の人や集団とのかかわりに視点をおいた内容項目２と４に関係する生徒の意識と実践の実態を知るために、アンケートを実施した。

アンケートは、都内公立中学校７校の生徒約９００名に対して内容項目２「主として他の人とのかかわりに関すること」と４「主として集団や社会とのかかわりに関すること」の合わせて１５項目とし、さらに実践および行動の質問を含めて３０の質問を実施した。生徒たちの意識と実践の両面で比較、反映しやすくするために「そう思う」「わりとそう」「あまりそうで

はない」「ぜんぜんそう思わない」から選択できるように工夫した。

意識面の調査の結果は図１のように、実践面の調査は図２のようになった。図１から人にはそれぞれの個性や立場があることに対して、「そう思う」「わりとそう」と答えた生徒は実に９７％にものぼり、生徒の個性を尊重することへの意識、関心の高さがうかがえる結果となった。

一方で、図２から「自分とは異なる個性や立場を尊重し、理解しようとしている」という質問に対しては、「そう思う」と答えた生徒は、半数以下の３０％まで減少した。「わりとそう」という回答をしている生徒が増えているが、これは意識はしているが行動に移すことができないことの表れであろう。

友達を含めて人と接していくときに、自分以外の人の個性や立場、考え方などの意識はしているが、実際の行動が伴わない傾向が認められた。

この集計結果をもとに立場の違った人の考え方を理解し、受け入れることで、自分を含めた人間関係をより深め、ともに生きていく喜びを分かち合える心をはぐくんでいくことを指導のねらいとした。

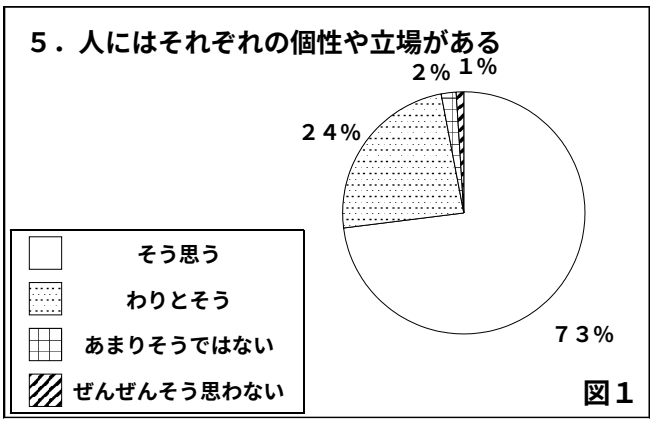


図１

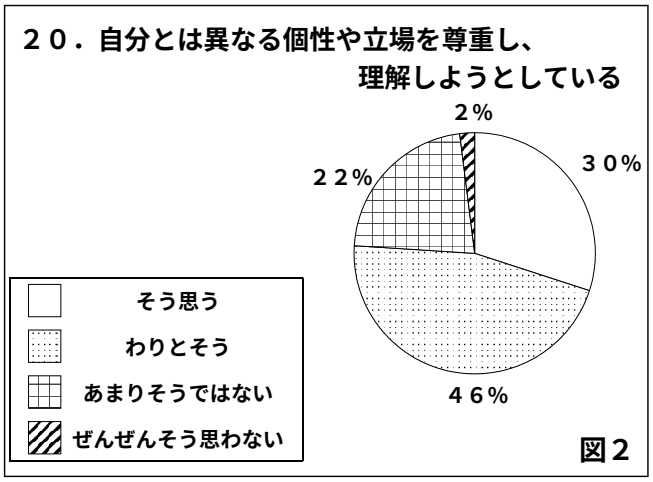


図２

(3) 指導と評価の工夫

ア　資料「山寺のびわの実」(『中学生の道徳③自分をのばす』あかつき）の選定

資料の選定においては、いろいろな意見や考え方を知り、心が変容していくことを実感できる題材であることを重視した。生徒にとっては共感できる場面が多く、色々考えさせられる資料である。

また、資料の提示については、時代が古く方言も入っていることもあるので、教師の範読とした。そして、最後に甚太のつぶやいた台詞を空白にして考えさせることにした。自分の考えた台詞を発表する場面では、各自オリジナリティーあふれたものになるため、生徒たちは大変興味深く、他の生徒の発表を聞くであろう。この工夫により、自分の考えがさらに深まっていくと予想される。

イ　授業における指導の工夫

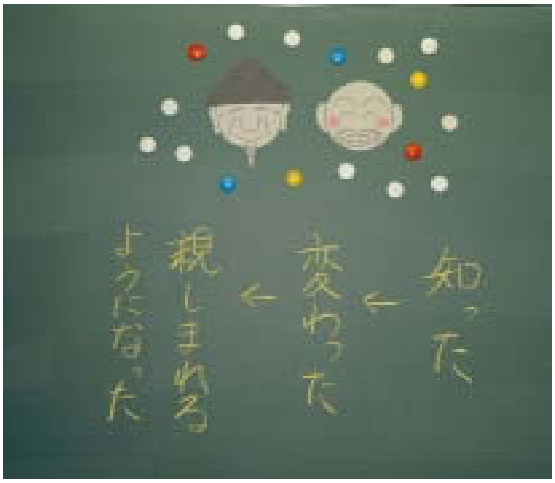
知らなかったことを知る⇒知ることによって心が豊かになることを実感する⇒実感することによって道徳的価値に憧れをもつ　このような心の変容・発展を、資料にそって段階的に生徒自身が確認できることに重点をおき、授業の展開・発問を考え、指導と評価の一体化を

見ることのできるワークシートを工夫した。

また、視覚的に訴える工夫として、資料に出てきた中心人物の顔の絵を用意した。資料の最初と最後における中心人物の人間関係を、顔の表情や距離感で表した。資料を一度読んだ後、話を振り返って、主人公甚太と和尚の関係を示した。資料の最初では、しかめっ面の甚太と和尚の距離を離す(子どもや村人が和尚の周りだけを囲んでいる)　→　最後は笑顔の甚太と和尚の距離を近づける(子どもや村人は甚太と和尚二人の周りを囲んでいる)ように提示した。甚太が事実を知った結果、自分が変わり、みんなに親しまれるようになったことが視覚的にわかり、内容理解により役立つと思われる。　（下の写真を参照）

終末部分では、『心のノート』p.10,11「心で見なければ本当のことは見えないんだよ」（サン・テグジュペリ『星の王子様』）の言葉を人に対するときのキーワードとして気付かせるようにした。授業の導入や終末の部分で開き、読む、見る、感じる等の活動をすることで、生徒の心に効果的に働きかけることができた。

→



ウ　評価の工夫（ワークシートを通して）

生徒の道徳性の評価は、生徒が自らの人間としての生き方についての自覚を深め、人間としてよりよく成長していくことを支えるためのものである。また、道徳性は人格の全体にかかわるものであり、数値などによる評価を行うことは適切ではない。生徒の心の変容を様々な方法でとらえることが重要である。

また、道徳の評価の観点においては、指導との関係から、次の四つに分けて分析されることが多い。「道徳的心情」「道徳的判断力」「道徳的実践意欲と態度」「道徳的習慣」である。「道徳的習慣」については、特に基本的な生活習慣をどの程度身に付け実践できているかを把握するものであるから、長いスタンスで見守り評価していく観点であると思われる。

そこで、第２分科会では「道徳的習慣」を年間の生徒の学習活動の中で評価することとし、それ以外の観点を中心に評価することを目指し、指導と評価が一体化できるワークシートを作成した。（次ページの資料参照）

このワークシートの工夫点は、１時間　の道徳の授業の中で道徳性の評価における四つの

観点のうち、三つの観点を評価できる点である。これは、生徒の道徳性の理解を深め、評価する上で有効である。最後に、ワークシートの一番下に教師からのコメントを書く欄を設けた。これは、生徒の文章に対して受容的な立場からの共感や励ましのことばを添えて返却することによって、教師と生徒の心の交流を深め、生徒の成長への意欲を喚起するのに有効であると考えられる。

評価する場面と評価のポイントは以下の通りである。

道徳的心情 という観点は、ワークシートの最初の発問①である。

○　説明できないけど気に入らないと思う甚太の気持ちがわかる。

○　痛い目にあわせたのに、どうしてよけいにイライラするのだろう。このときの甚太の気持ちがわかる。

ここでは、甚太の行為・葛藤に心情的に迫ることができたかというところがポイントである。

道徳的判断力 という観点は、ワークシートの発問②である。

○　和尚さんの本当の姿を知って、甚太はどんな気持ちになったのだろうか。その時に、深々と頭を下げて甚太がつぶやいた言葉を考えてみよう。

ここでは、甚太の直面した事実とその思いに気付くことができたか、というところと、甚太の立場で言葉を考えさせることによって生徒がどのように思考し、判断したかをみることがポイントである。

道徳的実践意欲と態度 という観点は、ワークシートの発問③、④である。

○　ずっと、和尚さんのことが気に入らなかったのに、甚太の気持ちが変わったのはどうしてだろうか。

○　気が付いたこと、考えたこと、これからの自分のことなどをまとめてみよう。

ここでは、甚太の心の変容に気付き、道徳的によりよく生きようとする意志が芽生えたかというところをみることがポイントである。

資料　山寺のびわの実　ワークシート

＿＿年＿＿組＿＿番　名前＿＿

①甚太の気持ちを考えてみよう	よくわかる	なんとなくわかる	あまりわからない	まったくわからない
○「説明できないけど気に入らない」と思う甚太の気持ちがわかる。				
・それはどんな気持ちだろう。				
○痛い目にあわせたのに、どうしてよけいにイライラするのだろう。このときの甚太の気持ちがわかる。				
・それはどんな気持ちだろう。				
②和尚さんの本当の姿を知って甚太はどんな気持ちになったのだろうか。そのとき、深々と頭をさげて甚太がつぶやいた言葉を考えてみよう。	「			
③ずっと甚太は和尚さんのことが気に入らなかったのに、甚太の気持ちが変わったのはどうしてだろうか。				
④考えたこと、気がついたこと、これからの自分のことなどをまとめてみよう				
○教師からのコメント				

(4) 指導事例（第３学年）

ア　主題名　　「他に学ぶ広い心」　内容項目２－(５)

イ　資料名　　「山寺のびわの実」（出典『中学生の道徳③自分をのばす』あかつき）

ウ　資料の概要

山寺の和尚とは「性が合わない」と自分で思い込んでいる甚太が、和尚の広い心の内を知り、それまでの自分の心の狭さに気付き、今までの生き方を改めようとする。一人娘を亡くしてからの甚太は、和尚だけでなく周りの人にも冷たく当たっていたが、和尚が自分を受け入れていたことを知った後は、甚太を避けていた子どもたちにも温かく接するようになる。

エ　ねらい

自分と異なる意見や立場を尊重し自らを豊かにすることで、生きがいを求める心をはぐくむ。

オ　指導過程

本時　　（「評価の観点と方法」の欄の☆印は評価のポイント）

	主な発問と学習活動	予想される生徒の反応	指導上の留意点	評価の観点と方法
導入	・中心人物を把握する ・資料を読む。 ・マグネットで内容や登場人物を確認する。	・印象に残った箇所に印をつける。	・二人の絵を貼り中心人物を確認する ・資料を配布し、教師が範読する。 ・甚太と村人との人間関係の距離をマグネットで示す。	・資料の内容に興味・関心は向いているか。 【観察】
展開1	発問① 甚太の気持ちを考えてみよう。 ○「説明できないけど気に入らない」と思う甚太の気持ちが分かるか。 ○ 気に入らない和尚さんに痛い目にあわせたのに、どうして余計にイライラするのだろう。このときの甚太の気持ちが分かるか。 ・甚太が知らなかった和尚さんの本当の姿はどんな	ワークシートに記入 ・自分にも同じような経験があるから何となく分かる。 ・いけないことをしてしまったと後悔していると思うから、自分にイライラしている。 資料を振り返り確認する。	・生徒の素直な感想に重点を置き、発言しやすい雰囲気づくりに努める。 ・次の発問②につなげるため、資	☆甚太の行為・葛藤に心情的に迫ることができたか。 【観察・ﾜｰｸｼｰﾄ】

	人だったか。		料の内容を簡単に確認。	
	発問② 和尚さんの本当の姿を知って甚太はどんな気持ちになったのだろうか。そのとき甚太がつぶやいた言葉を考えてみよう。	・ワークシートに自分の考えを記入し、発表する。 ・「ごめんなさい。和尚さんが俺のことをそんなふうに思っているとは知らなかったから。」 ・「みんなに親しまれる理由が分かった。今までひどいことをして、申し訳ないです。」	・発言させ、いろいろな考えを引き出す。 ＊相手を理解することが自らを豊かにすることに気付かせる。	・自分の意見を発表しているか。【発表】 ・自分と異なる意見を尊重できているか。【観察】 ☆甚太の直面した事実とその思いに気付くことができたか。【ﾜｰｸｼｰﾄ】
展開2	発問③ ずっと和尚さんのことが気に入らなかったのに、甚太の気持ちが変わったのはどうしてだろうか。 ・終わりの６行を聞く。(教師範読) ・甚太に対する村人たちの接し方は、どう変わったか。	・和尚さんの本当の姿を知って申し訳ないと反省したから。 ・子どもたちは甚太のことが好きになった。	自らの心が豊かになれば、「よりよく生きよう」という気持ち(生きがい)が生まれることに気付かせる。 ・甚太と村人との人間関係の距離をマグネットで示す。 ・甚太の変容を視覚に訴える。	☆甚太の心の変容に気付き、よりよく生きようとする意思が芽生えたか。【ﾜｰｸｼｰﾄ】
終末	・『心のノート』を読む 発問④ 気が付いたこと、考えたこと、これからの自分のことなどをまとめよう。	・考えたことをまとめ、自らの心の変化を整理する。	『心のノート』P10,11	・生きがいを求めようとする心が深められたか。【ﾜｰｸｼｰﾄ】

カ　評価の視点

自分と異なる意見や立場を尊重し自らを豊かにすることで、生きがいを求める心を育むことができたか。

3　第2分科会のまとめ

本分科会では研究主題である「生きがいを求める心をはぐくむ道徳の授業」を追求するために、１４ページに示された仮説のもと、内容項目２－（５）「他に学ぶ広い心」を取り上げ、研究を進めた。その成果と課題を以下のようにまとめた。

(1)　成果

ア　道徳的な価値に関する意識調査

本分科会が取り組む重点的な内容項目は２と４の柱であり、それに対する中学生の道徳的な価値の意識はいかなるものなのか、アンケートによる調査を行った。調査項目については一文一句を検討し、そのねらいが明確になるように作成した。

その結果、どの項目を見ても道徳的な価値に関する意識はあるが、実際の行動が伴わない傾向があった。これは、道徳的な価値の意識が表層の部分にとどまっているためと考えられる。特に２－（５）に関してその傾向は著しく、各学校の日頃の生徒観察によっても全体的に自己中心的で他者を否定する傾向が見られるとの報告が多かった。そこで、望ましい人間関係の育成こそが生きる喜び、すなわち生きがいにつながると考え、本分科会の視点を内容項目２－（５）「他に学ぶ広い心」と決定するに至った。

イ　資料の選定について

活用する資料は、ねらいとのかかわりでいかに道徳的価値が含まれているか、また生徒の実態に適合しているか検討を重ねた。その結果、昔話調の物語「山寺のびわの実」に決定した。

資料の内容と自分自身を重ねて考えることができ、各場面の経過に沿って価値の自覚を深めていくのに適したよい資料であった。

ウ　授業研究

○　資料提示・板書計画

本資料は内容的にすばらしいものであるが、文章が長く方言も含まれており、場面理解が難しい。そのため資料を配付した後の教師の範読により、登場人物の声色や音読速度を工夫し分かりやすく伝える努力をした。また中心人物の絵、子どもや村人を表すマグネットを黒板に貼ることにより、あらすじや人間関係、及びその関係の変化を、視覚的に理解できる工夫をした。

加えて、終末６行を空欄にし、セリフを考えさせる形式をとった。その結果、生徒は中心人物の心の変容を自らの問題としてとらえることができた。

○　ワークシートの工夫

発問は生徒の道徳性の変容を見る重要な手がかりとなるので、常に三つの評価の観点を念頭に置いて熟考を重ねた。

各発問に対しての生徒の反応、感じ方、考え方、答え方をあらかじめ具体的に予測し、ワークシートの記入欄に改善を重ねた。導入部での二つの発問には、四者択一で○をつけ

る方法を取り入れた。日頃は書くことに抵抗を感じる生徒も、○をつけるという取り組みやすい行為から入るため、その後の発問に対して比較的自然に自分の気持ちを文章化することができていた。また、コメント記入欄の教師による共感や激励の言葉は、教師と生徒の心の交流を深め、生徒の生きることへの意欲を高めたと言える。

授業後の分析からも、今回作成したワークシートは、心情、判断力、実践意欲と態度について、指導と評価の一体化ができる形態であったと検証できた。

○　評価

道徳の授業における評価は他教科とは異なり、数値化するものではないという認識の下にその方法、手段を検討した。

a 授業における発言の分析（心情、判断力、実践意欲と態度）

b ワークシートの記述の分析（心情、判断力、実践意欲と態度）

c 長期的な日頃の発言や行動の分析（心情、判断力、実践意欲と態度、習慣）

上記cについては長いスタンスの中で見ていくものであり、今回の研究期間で分析し評価するのは困難であると判断した。そこで、授業における発言やワークシートの記述から、道徳的心情、判断力、実践意欲と態度の三観点に着目する授業展開を研究し、指導と評価の一体化を図った。授業研究を通し教師は生徒の発する小さな一言や振る舞い、そして記述から、生きがいを求める心を少なからず感じ取ることができた。

○　『心のノート』の活用について

自分を振り返るために、『心のノート』に掲載されているサン・テグジュペリ『星の王子様』の一節「心で見なければ本当のことは見えないんだよ」を活用した。その後、ワークシートに自らの心の変化を整理し、記入する時間を終末とした。このような活用をすることで、生徒の心に効果的に働きかけをすることができた。

エ　生徒の変容

授業の終末に【考えたこと、気が付いたこと、これからの自分のこと】について記入させた。

記入例

・私も甚太みたいに他人をうらやましいと思うこともあるけど、そこでその人に対して悪いことをするのではなく、「どうすればその人のようになれるのか」を考えてみればいいと思う。その人だって努力しているのだから、自分だって努力していこうと思いたい。

・一人でさびしく生きるより人に囲まれて生きている方がずっといい。ほんの少し気持ちを変えるだけでいいのだから、自分の中で何か悪い気持ちがあるのなら、少しずつ見直していきたい。

・人間はささいなことがきっかけで変われるんだな、と思った。私もこんなきっかけがあれば、もっと自分を変えたいと思う。
・甚太のように大きな心をもってやっていこうと思う。
・甚太はこれから幸せな暮らしになるだろう。ハッピーエンドになってほしい。優しくなればきっといいことがある。僕もハッピーに一生を過ごす。
・後ろ向きに考えるんじゃなくて前向きに考えれば、よいことがあると思った。
・人を疑ってばかりいないで、もっと人を信じることができる自分になりたい！それだけじゃなく人に信じてもらえる（親しまれる）人になりたい。

生徒の記述を分析すると、これまでの自分を振り返ったり、これからの自分はこうありたいという願いを膨らませたものが多く見られた。生徒は今まで知らなかったことを知り、知ったことによって変わる。そして変わった自分が周囲に受け入れられ、認められる。人に受け入れられ認められることこそが喜びであり、人としての生きる喜び、すなわち生きがいにつながるのである。多くの生徒が授業を通してこれに気付き、自分自身の生き方に深く結び付けていると感じられる。

このような生徒の変容は、今回第２分科会が行った研究の成果であり、内容項目２－（５）「他に学ぶ広い心」に対する道徳的な価値の自覚が深まったと考えられる。

(2)　課題

ア　生徒の心に響く資料を選定し、生徒の実態にあった授業展開をさらに工夫すること。
イ　授業を公開し、教師の道徳授業に対する取り組む姿勢や技術の向上を図ること。
ウ　長期的な視点で生徒の道徳性の変容（価値の自覚から習慣・行動化へ）を検証するための方策を開発すること。
エ　個々の生きる喜び、すなわち生きがいに結び付いていく過程の検証方法を開発すること。
オ　生徒の道徳的な価値観の深まりと広がりが記録できるノート（心のノート等）を開発すること。

以上のような課題が考えられ、今後継続して研究を深めていく必要性を感じる。

Ⅴ　まとめと今後の課題

１　まとめ

本研究では、豊かな人間性を育てる道徳教育の一つとして「生きがいを求める心をはぐくむ道徳授業」と主題を設定し、二つの分科会に分かれ、道徳授業の進め方について研究を進めた。

（１）資料の工夫

「生きがい」を感じさせる資料として、多面的・多角的にとらえられる資料を選定し、読み聞かせのスタイルをとった。そのことにより、生徒が資料を理解しやすくなり、多様な感じ方、とらえ方が引き出せるようになった。あらかじめ作成したシートを黒板に貼り付けるなど、人間関係や状況の変化を視覚的に示すことで、生徒の理解を深めることができた。資料選定と提示方法の工夫によって、生徒の興味・関心を促し、より効果的な授業の展開につなげることができた。

（２）発問、ワークシートの工夫

資料を生かすために、中心発問以外は主人公の気持ちの変容にそって生徒一人一人が自分自身と向き合い考えられるよう、発問をできるだけ簡潔にし、精選した。また、ワークシートは記入欄や記入方法の工夫を重ね、生徒が段階的な思考を深められるようにした。その結果、生徒はワークシートに記入していきながら、登場人物の心の葛藤に心情的に迫り、主人公の心の変容に気付き、道徳的な価値を自覚していった。

（３）指導と評価の工夫

評価の方法としては生徒の発言や行動の観察、分析などがあげられるが、本研究では指導と評価が一体化できるワークシートの作成により、「道徳的心情」「道徳的判断力」「道徳的実践意欲と態度」の観点について評価できるようにした。さらに、教師の共感や激励のことばを添えて返却し、これを継続して指導していくことによって、生徒一人一人が道徳的な価値の深まりや広がりを記録でき、「道徳的習慣」の観点での評価も可能となるであろう。

（４）成果

上記のように、指導と評価の工夫を通して、研究主題である「生きがいを求める心をはぐくむ道徳授業」に迫ることができたといえる。

２　今後の課題

（１）生徒の心に響く資料の選定、収集、開発。

（２）道徳の時間に対する教師の取り組む姿勢、技術の向上。

（３）生徒の変容を長期的な視野で検証する方策。

（４）授業が生徒の生きる喜び、生きがいに結びついていく過程の検証。

（５）道徳的習慣の観点、長期的な視野での生徒の変容を含む評価の工夫。

（６）生徒の道徳的な価値の深まりと広がりを記録するノートの工夫、開発。

（７）学校での道徳教育の成果を家庭や地域に戻し、共に見守っていく方策。

平成１５年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録
平成１５年度　　第３１号

平成１６年1月２１日

編集・発行　　東京都教職員研修センター
所在地　　東京都目黒区目黒１－１－１４
電話番号　０３－５４３４－１９７４

印刷会社名　　勝田印刷株式会社